

世界のバレンタイン事情

2月14日が近づくと、街はバレンタインムード一色。世界各国でもバレンタインデーは愛や恋人の日として親しまれていますが、日本とちょっと事情が違います。お隣の韓国では女性から男性にチョコレートを贈る習慣は日本と同じですが、バレンタインデーもホワイトデーも縁がなかった人が4月14日に黒い服を着てチャジャンミョンという麺料理を食べる「ブラックデー」があるそうです。ヨーロッパでは、男女ともお互いにプレゼントを贈りあいます。チョコレートより花束やカード、アクセサリが一般的です。アメリカも同様に恋人や夫婦、家族に日頃の感謝の気持ちを込めて贈るので、「義理チョコ」はないそうですよ。

【聖ヴァレンティヌス】

269年、ローマ帝国の皇帝は、戦う士気が下がるという理由で兵士の結婚を禁じていましたが、ヴァレンティヌス司祭は兵士と恋人を密かに結婚させていました。これを知った皇帝によって処刑されました。のちにキリスト教徒の間で司祭は殉教者と認められ、処刑された日(2月14日)をバレンタインデーと決めました。



CONTENTS

- 02 **注目人**
今、この人と話したい!
紙芝居作家
堂野 こむすいさん
- 08 **TOPICS**
工場見学
ヒガシマル醤油
- 10 **教えて!先生**
カルトナー ジュ編
- 14 **料理長のワクワクお料理塾**
**冬野菜たっぷりの
あったかポトフでおもてなし**
- 19 **イベントレポート** 20 **Our Hope**

表紙COVER PHOTO



ラグジュアリー感あふれるプライズルームを完備。ドレスチェンジのひと時を、くつろぎのプライベート空間で。



今、この人と話したい! **注目人**

紙芝居作家
堂野こむすいさん

教えて!先生 ● カルトナー ジュ編

トピックス ● ヒガシマル醤油 工場見学

新パーティ会場「ラミュージス」のダイニングルームとプライベートガーデンをつなぐテラス。鮮やかなコバルトブルーに彩られたオープンスペースで爽やかなパーティをお楽しみいただけます。

今、この人と話したい!



注目人

CHUMOKUBITO



3人兄弟の末っ子のせいとか、駄々っ子で暴れん坊。やんちゃをしすぎて神々の国から追放されてしまします。他にも、気のいい大國主、激しいヤマトタケル、嫉妬深いイハノヒメなど、古事記の中には個性豊かなキャラクターが次々と登場し、その魅力が生き生きと描かれています。いつしか堂野さんの頭の中には独特の「古事記ワールド」が広がるようになりました。

波乱万丈な書物 古事記の面白さを人々に

大人になっても古事記に興味を持ち続け、改めて調べるうちにいろいろなことが分かりました。「古事記は戦前戦後で随分と評価が違う書物です。戦前は天皇のルーツが描かれた古典が、敗戦で二転。学者などの批判対象に。今では忘れ去られようとしています。僕は、日本には昔からこんな面白い物語があるということをもっと多くの人々に知ってもらいたいと思うようになりました。」



管理の仕事を経て帰郷。古事記をテーマにイラスト制作や紙芝居の口演に力を入れました。

堂野さんのイラスト制作はペンで描いた下絵にパソコンで色を付ける方法で、自ら「電彩画」と名付けています。子どもたちにも親しみやすいように、主人公をサルやパンダなど動物に置き換えて表現しました。やんちゃなスサノヲ(サル)のお伴をするサブキャラにカエルを登場させるなど、楽しい雰囲気になるよう工夫を凝らします。「見難解と思われるがちな古事記の世界を、できるだけシンプルに、かつ魅力的に伝えるのは難しくもあり、楽しい作業です。」



恋したり、裏切ったり 人間味あふれる神々の物語

「アマテラスオオミカミが優しいのをいいことに、スサノヲは暴れ放題」。話しかけるような独特の語り口調で、自作の紙芝居を繰る堂野こむすいさん。紙芝居作家としてデビューしてまだ2年ですが、その活動が新聞などのメディアで度々取り上げられています。というのも、堂野さんが取り上げるテーマが「古事記」だから。

なぜ今、古事記なのか？

なぜ紙芝居なのか？

古事記に魅了された堂野さんの言葉に耳を傾けました。

神々が生き生きと描かれた 古事記ワールドで戯れる

古事記は7世紀後半、天武天皇の命により編纂された日本最古の歴史書といわれています。上中下の3巻からなり、神々が生まれた神話の世界から第33代天皇までの系譜を伝えるエピソードで綴られています。昔話として一度は聞いたことのある「ヤマトノヲロチ退治」や「稲羽の素戔」の物語はその二つ。堂野さんに古事記を教えてくれたのは祖母でした。「面白い神話の世界にすぐに夢



紙芝居作家

堂野 こむすいさん

どうの

■プロフィール

2002年、イラスト制作を開始。毎日、読売新聞ミニコミ誌に4コマまんが連載。紀伊國屋書店加古川店などで個展開催。2013年、水墨画家の父・堂野夢登の名をうけて、作家名を「堂野こむすい」と命名し、紙芝居作家として活動。たつの市在住。



中になりました。物語に登場する神様は厳かで神々しい存在だけではなく、泣いたり怒ったり、恋したり、裏切ったり...と実に人間らしい振る舞いをします。なかでも堂野さんが一番好きだというスサノヲノミコトは

注目人

今、この人と話したい!



「温故知新」がモットー 古きをたずねて 新しきを知る

紙芝居は、イラストを常設展示しているギャラリーで毎月1回、定期的開催。他にも地域の幼稚園やデイサービスセンターなど福祉施設、イベント会場などで紙芝居を披露し、好評を得ています。公演前に作詞作曲したオリジナル曲をバンド仲間と披露することもあるとか。

紙芝居の醍醐味は、目の前にいる観客の反応がダイレクトに届くライブ感。特に子どもの反応は怖いくら

いに正直です。堂野さんは、黒いスーツに黒い帽子というお決まりの格好で登場し、「いったい何が始まるの?」と目を輝かせる子どもたちのハートをガッチリつかみます。1話は10分程度の短い時間ですが、飽きさせないように、子どもたちの反応を見ながら紙をめくるスピードを遅くしたり、早くしたり。それでも飽きてしまったら、クイズ形式にして質問したり。堂野さんは「回を重ねるごとに最後までじっと聞いてくれる子どもが増えてきました。少しずつ腕前も上がっているんですかね」と嬉しそうに顔をほころばせます。今の子どもたちはタブレットやパソコンで

動画やマンガを見る事に慣れてしまっています。その中であえて、人の声と手描きの絵で古事記の魅力を伝えようと、挑戦し続ける堂野さん。もともと紙芝居は本やマンガの原点でもあるそうです。「古事記も自然と共にたくましく生きた日本人の心の原点です。だからこそ、本来あるべき姿というか、なるべく自然に近い形で伝えていきたいと思っています。いつか太平記も紙芝居で紹介したいですね」と、話す堂野さん。アナログな手法でマイペースながら一歩一歩、自分の夢に向かって着実に歩み続ける姿は、とても輝いて見えました。

紙芝居上演会のお知らせ

日時：毎月第3土曜日 14時～
会場：カフェレストラン「バビベポ」
住所：相生市青葉台6-24
電話：0791-23-3143
入場料：無料



※併設のアートスペースでイラストの常設展示中!

■ 問合せ先

ギャラリー夢酔庵
たつの市新宮町段之上374
0791-75-0407
<http://www.musui.com>

■ 近々オープン!

ギャラリーこむすい庵
たつの市龍野町中霞城102